

認定特定非営利活動法人 RASA-Japan

ニュースレター

2022.12 Vol. **41**



ことしのRASAを 振り返って

理事長 藤井 典夫

栄養失調児救済事業の中止

RASAの活動はコロナ禍で大幅に制約された中、 令和4年も暮れようとしています。

フィリピンの栄養失調児への給食支援活動は、結局再開できないまま終わろうとしています。

給食支援にはそれなりの成果を出し、良さがあります。単に空腹を満たすだけの給食ではなく、工夫された献立内容や購入される食材の選定にも栄養バランスを考慮した「質を求めた給食」が行われておりました。

その結果は、給食を受ける栄養失調児童の健康状態に顕著に表れます。定期的に実施する健康チェックのBMI数値が変化し始め、経過を観察しているうちにノーマルの状態に向かって段々回復していきます。

しかし、コロナ禍で給食活動自体を中断せざるを得ず、すでにお知らせさせていただいておりますように100名の児童への給食支援活動から、学校が選定した140名の児童への食品配付活動へと切り替えさせていただきました。2週間ごとに米、卵、粉ミルク、缶詰などの食品を袋詰めして、保護者に配付しております。

栄養状態の改善には給食支給が望ましいのですが、 やむを得ません。ただし、配付する食品にも卵や 粉ミルクといった栄養を考慮して食品を選んでいます。

ところが、ここに来て大きな難問に遭遇しております。 それは限度を超えた大幅な円安です。1ドル140円 前後で推移しておりますが、現地での受け取り額が 減らないように送金しております。しかし、現地の物価 高騰により、配付食品数を減らさざるを得なくなりま した。

私は7月の新校舎竣工式に出席する機会に、ラグナ州の食品配付の状況を見学したいと思っておりました。市場での食品の選び方、数量の決め方などを中心にマーケットに連れて行ってもらい、自分の目で確認したかったのです。現地スタッフがきめ細かく仕入れされている姿に感心いたしました。例えば、米はスー

パーで調達せず精米所から直接購入し、コスト低減の努力をされていました。



予算に合う食品を探す現地スタッフ デニスさん

また、140名を選んで食品を配付していますので、 支援対象児童の家を訪問しました。厳しい環境で 家族で力を合わせ、笑顔で暮らす姿に胸が痛くなりま した。食品の量と質を落とすことなく、支援を継続した いと強く願います。皆様のご寄付金に期待しています。 何卒よろしくお願いいたします。



食品支給を受ける家族は子だくさんが多い

学校建設とボランティア派遣事業

7月にブラカン州のバラグタス・セントラル・スクールの竣工式を予定通り終えることができました。建設費予算が大幅に不足する中、クラウドファンディングで全国の新しいご支援者も増え、所期の目的を達成することができました。建設総工費は日本円で約720万円でしたが、RASAの会員のご支援、ボランティア活動に参加いただいたOB・OGの方々も尽力いただきました。

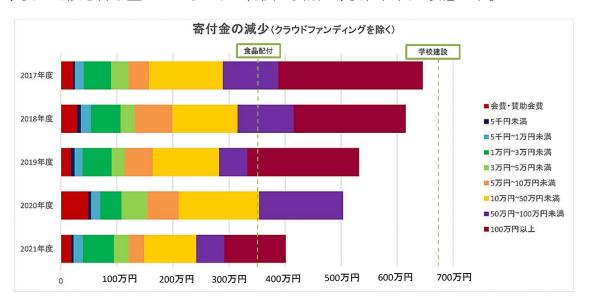
学校建設のこれから先の計画は、現在「**白紙**」の 状態です。資金不足のため、現地と全く前向きな話し 合いができない状態です。フィリピン現地も外出に 対する規制もあり、全く動けていません。

これは現在の大きな問題です。建設資金準備のため企業訪問等の活動をしていますが、なかなか前向きな話に進みません。学生からもボランティア活動スタートに関する質問が寄せられています。早く具体的な回答ができるようになることを切望しております。

支援継続の危機

2020年初頭のコロナ禍からその影響は計り知れないもので、支援に大きく影響が出ています。 また、寄付金や支援者数の減少で今までのような支援活動ができなくなってきており、深刻な問題です。 次の学校建設につきましては、竣工式で現地訪問の際に候補学校見学や詳細を話し合いたかったのですが、 資金不足のため話を前に進めることができませんでした。

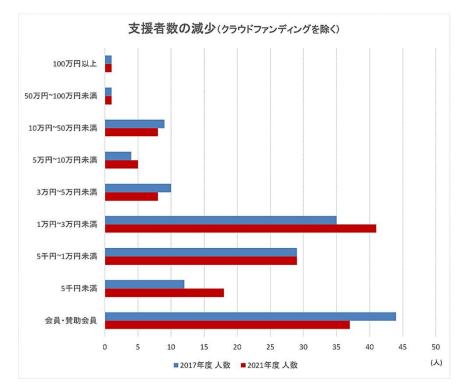
多くの学校が建設を待ち望んでいるだけに苦渋の決断で、現在白紙の状態です。



寄付金が2017年度から5年間で大きく減少しております。

中でも、10~100万円の高額寄付者はご高齢の方が多く、従って寄付の中止や継続不可となりました。 「できるだけ多くの方に支援をお願いする」ために幅広く、活動のアピールを行っています。

また、法人・団体に支援をお願いしておりますが、なかなか前向きなお返事をいただくことができずにおります。



コロナ禍での日本経済の更なる落ち込みやウクライナを始めとする世界各地の侵略や内戦での支援の訴えで寄付金額や支援者数が逓減するばかりです。

長年継続してまいりました学校建設や現在主たる活動の食品配付の支援は、現地の子どもたちが支援が無くなるのではないかと不安を抱くことなく受けることのできる、「誇りある支援」だと感じています。

ご支援者の皆様に感謝申し上げますとともに、改めて活動継続のために何卒よろしくお願い申し上げます。

コロナ禍で給食から食品配付へ

フィリピンでの急激なコロナ感染拡大によるパンデミックで、給食から食品配付へ支援の内容と方法を 以下のとおり変更しました。

	2020年3月14日	給食支援でRASAが学校訪問中に、コロナ感染急拡大で突然学校閉鎖
	2020年7~9月	罰則付きの厳しい外出禁止の継続で、無職無収入になった困窮家庭の 緊急支援として食品配付を開始
	2020年9月〜2021年6月 制度改革で 新学校年度開始	RASAの支援の諸条件に学校長が合意して契約 RASAの予算で最も効果的な支援として ・1日支援人数を100名から、7学年各20名 合計140名に増やす ・支給期間を年間登校日数209日とする ・予算は、1名1日40ペン(約100円) 支援事業に必要な物資調達、配付、管理、送金の受取と経理責任を 持つRASAの現地スタッフを置く これにより、日本と現地の日常的に綿密な指示や報告が可能
	2022年8月~2023年7月	同上契約で、対象児童に最も適切な食品選びと組み合わせを指示する 円安でも契約した受取ペソ額を減らさないよう、円での支援額を増やす しかし、現地の急激な物価高騰が継続しており、現地スタッフに努力をして もらったが、10月から支援物資の購入量がかなり減る事態となる

食品内容

カロリー源として米5kg、最高の蛋白質の卵を10個、カルシウムの吸収率が高い牛乳から作った粉ミルク8袋(33g/袋牛乳200ml相当)、調理設備が無くても食べられる安全な缶詰食品の魚や肉等7個、麺やパン等も配付していました。

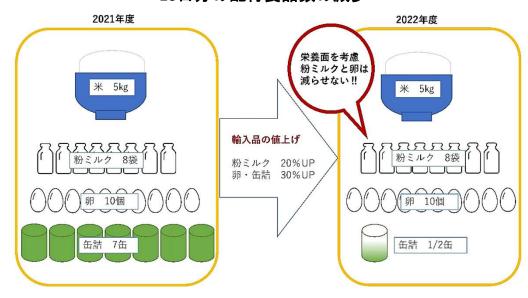
しかし、急激な物価高騰で10月以降缶詰等が値上がりのため、配付できなくなりました。米、卵、粉ミルクは何としても確保して、配付を維持したく思っています。9月から登校禁止が全面解除になり、今までのように空腹のまま登校して授業を受けることがないようにと願っています。

配付

1食40ペソ(約100円)で1日140名を支援、今年度は年間203日分がRASAと学校で契約に基づいた予算で食品配付されていますが、実際は家族で消費されています。

家族数は6人以上が70%と多人数であり、更に困窮している近隣の人を見ると、配付品を分け合っているのです。困っていても支え合い、分かち合っていることは、学校でもRASAの計画的な食品配付の効果が大きいことを認め、更なる継続を7月訪問時の契約の際に学校長から強く望まれたことでした。

10日分の配付食品数の減少



取り残される貧困層

食品配付を行う際に、RASAから現地スタッフに健康 状態や生活状況等を聞くよう指示しました。それは、 本当に必要な支援を行うために、支援受給者の現状 を知らなければならないからです。

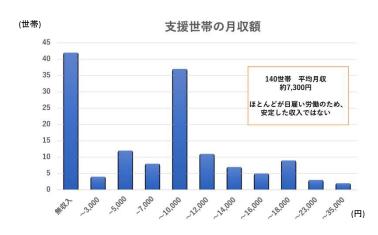
支援対象児童の世帯は正規雇用ではなく、非正規 雇用や日雇い労働の世帯がほとんどです。

日雇い労働の1日の収入は、

- •大工 約900円
- ・建設労働、家事手伝い、運転手 約780円
- •移動販売 約650円

と低く毎日仕事がないため、困窮した生活を送って います。

ほとんどの世帯が働いているのは両親のどちらか 1人で、ひとり親世帯も多くいます。仕事を求めて いますが、就ける仕事自体が少ないのです。 両親ともに無職の世帯数も多くあり、貧富の格差は 縮まることなく、大きく広がっています。



また、両親がおらず、祖父母と暮らす児童もいます。 理由は遠くに働きに出ていたり、逝去されているなど 様々です。

下右の写真の女性は、全盲で孫の児童を育てて います。児童の両親は、祖母に児童を預けに来て、 現在は行方知れずです。孫と共に手を取り合って 生活しています。



朝ご飯を食べさせることができ喜ぶ母親



配付食品を受け取る老人と孫



児童を育てる全盲の祖母

フィリピンは経済発展で豊かになった印象がありま すが、貧困層の生活に変化は見られません。

多くの栄養失調児救済のために「食品配付支援」を 継続していかなければなりません。

しかし、このまま円安が継続されると送金額補充が 困難になり、また現地での物価高騰が続きますと、 食品の質と量共にも減らさなければならなくなります。 貧困層から脱して自立していくためには、まず心身 ともに健康に成長していくことが必要です。

そして、教育を十分に受け、社会で役立てる能力を 身につけていかなければなりません。。

多くの子どもたちが少しでも栄養ある食事がとれる ように、皆様の温かいご支援をお待ちしております。

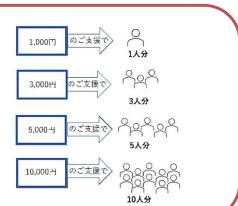
ご支援が食品となり お腹を空かせた子どもたちに 届きます

できる範囲で お力添えいただけますと幸いです 次回号で特集いたします

10日分の配付食品

- ·米 5kg
- 卵 10個
- ・粉ミルク 8袋
- ·缶詰 1/2缶

3,000円 5.000円 10,000円



フィリピンの貧困の実情

理事 藤井 忠子

フィリピンは確かに経済発展を続けていて、訪問するたびに首都圏の発展の様子や地方でもバイクの多さに驚きます。

フィリピンの経済実態

経済の根幹をなしているのは、設計から実施までを 海外の企業から一括委託(BPO産業)です。国独自の 製造業が少ないのです。

しかし、人口のたった1%の富裕層が国の富の50%を牛耳っていて、**富の偏差・格差**は地方でさらに拡大しています。中間層は豊かになってきていますが、貧困層は取り残され、発展の犠牲になっているのです。GNI(1人当たりの国民所得)の数字は、全体の平均としての数字なので、残りの50%を富の少ない中間層や人口の多くを占める貧困層全部が占めている表示となっています。これは実態からかけ離れていて、貧しい人々も豊かになっていることになります。

- •2020年GDP(国内総生産) 3,615億ドル 日本の6.9%と日本の豊かさと比較して相当低い
- ・2019年GNI(1人当たり国民所得) 3,834ドル 日本の9%で、日本円で約41.8万円 (当時 1ドル≒109円)

貧困層では1日350ペソ、仮にひと月に20日働けたとして、1年で84,000ペソ 日本円で約18.5万円(当時1ペソ≒2.2円)となり、20万円以下の収入で生活をして

います。貧困層はその日暮らしに近い生活と聞きます。 2年間続くコロナ禍での諸困難一外出制限下で全く 仕事ができず無収入で、政府の支援額も僅かで、 且つ平等に行き渡っていません。

フィリピンの雇用制度

労働契約は通常期間契約となっており、契約は雇用する企業の判断によって決まります。期間満了で再雇用されなければ失業することとなり、労働者は不安定な雇用環境に置かれています。経営者の権限が強く、労働者には不利な制度です。

最低賃金法があり、毎年額が上がっています。都市部や大企業では法律が適用されていますが、地方や田舎では土地を持たない農民や労働者が多いため、安い賃金でも仕事に就けたらいい方で、賃金水準はずっと低いまま貧しさに堪える生活状態が実情です。

フィリピンの労働事情

国民の平均年齢25歳で人口増加は年々続き、そのうち労働人口は4,383万人です。また、人口の10%の1,100万人もの人が海外に出稼ぎに行っており、倹約してかなりの資金を貧しい家族のために送金している、「世界一の労働輸出国」となっています。輸入超過で、貿易赤字を海外からの出稼ぎ送金で補っています。賃金が数倍の外国で安定した雇用が見込めると、国も制度として奨励しています。

栄養失調児救済支援を支える熱い心

2011年RASAがサウスビル I 小学校を建設中に、 PTAの依頼で飢餓児童たちへ焼ビーフンを支給したことが、給食開始のきっかけです。その後、給食支援のため2015年春まで借りていた民家を明け渡すことになり、近隣の場所を見つけ給食用に改装しました。

しかし、資金の不祥事が判明し、ここでは継続不可となりました。学童のためなら学校でと、「欠食の子どもたちのために、給食を学校管理下で準備から配付まで行ってもらえないか」とサウスビル I 小学校のアイダ校長に何度も手紙で依頼しました。2ヶ月返事が無かったので諦めかけていたら、なんと諸準備の手配を整えてから受入れ実施の返事が来たのです!

しかし、継続的な資金確保が必須です。当時RASAには予算が無く、シーランド神父に相談をしました。すぐに紹介いただいた東京のカトリック町田教会へ出向き、皆様の前で経緯を話し支援依頼を強く訴えました。帰りに思いがけず「手を貸す運動II」の代表佐藤正明様が初めての面識にもかかわらず、RASA

の資金支援の約束をしてくださったのです!

すぐ現地に行き、実施を見届けました。支援開始後、 月次データや写真を送ってもらい、佐藤様にお知ら せしています。佐藤様もグループで実際に現地まで 足を運ばれました。

支援当初から年間予算を立て定期的にご送金いただいており、給食支援が継続でき、今年で7年間になります。佐藤先生ご夫妻は、貧しい海外の若者への教育支援もされ、またRASAの給食支援を見て、フィリピン北部でも給食支援を今も継続されています。また、佐藤先生は描画がご趣味で、作品の花や実など多作品に心に響く言葉を添えて、カレンダーや絵葉書、カードにして広く販売され、支援活動資金の一部にされています。自宅を事務所に、数十年間活動を続けてこられました。

先生のご支援に深謝するとともに、ご高齢の今もその生き方を貫かれていることに感銘いたします。

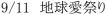
チャリティーバザーで活動を報告

現在、コロナ禍の影響で活動報告をする機会がほとんどありません。 できるだけ多くの方にRASAの活動を知っていただきたく、

9月11日(日)に「地球愛祭り2022in愛知」(天白区植田)、

11月13日(日)に「平針教会チャリティーバザー」(日進市)に参加をしました。対面で活動内容をお話できることは、本当に嬉しいことです。クラウドファンディングでの学校建設や食品配付の写真を見て、「フィリピンは豊かになったと思っていたのに…」と驚かれる方が多くいらっしゃいました。今後も活動報告の場を増やしていきたいです。そのような機会がございましたら、ぜひご紹介くださいますようお願いします。







11/13 平針教会

令和4年分の「寄附金受領証明書」をお送りいたします

いつもご支援いただきありがとうございます。

「認定NPO法人」でありますRASAへのご寄付(賛助会員会費を含む)は、税制優遇の対象となります。 ご寄付をしていただき、ご希望される方へ「寄附金受領証明書」を発行しております。

寄付金控除を受けるためには確定申告が必要ですので、お手続きに間に合うようお届けいたします。

・発行対象期間: 令和4年1月1日~令和4年12月31日の間に入金が確認できた ご寄付および賛助会員会費

・お届け予定日: 令和5年1月下旬頃

1年分を合算して発行させていただきます

住所等変更された方や発行のご希望は、事務局までご連絡ください。 税制優遇の詳細は、お住まいの地域の税務署にお問い合わせください。



今後の活動予定

フィリピンの現状に対応しながら、支援活動を進めてまいります。

1月下旬「令和4年 寄附金受領証明書」発送

会員が減少傾向です!活動を支援いただける方、法人・団体を募集しています!

資料をお送りいたしますので、RASA-Japan事務局までご連絡ください。

※「遺贈によるご寄付」、「相続財産のご寄付」は、相続税が免除されます。お志のある方はご連絡ください。

※郵便局・ゆうちょ銀行では現金での払込に加算料金が必要です。詳しくは窓口でお問い合わせください。

RASA-Japanは皆様の会費と寄付金で運営されています



認定 特定非営利活動法人 RASA-Japan 理事長 藤井 典夫

〒468-0014 愛知

愛知県名古屋市天白区中平2-2627

TEL/FAX 052-803-1649

E-mail info@rasa-Japan.com

郵 便 振 替:口座番号 00890-4-31185

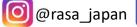
受取人 特定非営利活動法人RASA-Japan

三菱UFJ銀行:平針支店 普通 0037025

トクテイヒエイリカツドウホウジンラサジャパン

ホームページ http://rasa-japan.com







f @rasa.japan



@rasa japan









